

日本の未来を見据えて撃つ！
そんなあなたにホットな話題をお送りする
最先端オピニオン紙

日本シティジャーナル

発行: サウンドハウス
〒286-0825 千葉県成田市新泉 14-3
TEL 0476-89-2333 FAX 0476-89-2334
[平日] 10:00~18:00 [土曜] 12:00~17:00
<http://www.nihoncity.com>
成田市、佐倉市、印西市、富里市、香取市、山武市、八街市、匝瑳市、四街道市、東金市、銚子市、旭市、栄町、東庄町、神崎町、酒々井町、多古町、横芝光町、芝山町、九十九里町、稲敷市、龍ヶ崎町、河内町
発行部数: 300,000部

熊野の秘境、奥坊主のレイライン 人生の幕引きとなる最後の祈り場が奥坊主か？

日本は島国として知られていますが、実は山の国でもあります。「日本山名総覧」によると、2万5000分の1の地図上に載っている山の数には16,667にもなります。アメリカのカリフォルニア州ほどの大きさしかない日本に、なぜ、そんなに多くの山があるのでしょうか。これほどまでに細かく山々を命名するような事例は諸外国にはほとんどないようです。

例えば西日本で2番目の標高を誇る四国の剣山周辺の山々を探すと、その南方に向けておよそ10km、東西に16kmほどの枠の中に、少なくとも10の山が存在します。剣山から約1.5km東方へ向かうと一の森があり、同じ距離を南方に向かうと次郎笈があります。そこから2.5kmほど南を見ると新九郎山があり、その東方には折宇谷山、権田山、勘場山が、そして西方には中東山が存在します。さらに南へ進むと西から石立山、杉生山、西山と続きます。高い山の頂にはすべて名前があると考えても過言ではないようです。山々に名前が付けら

れるには、何等かの理由があるはずです。

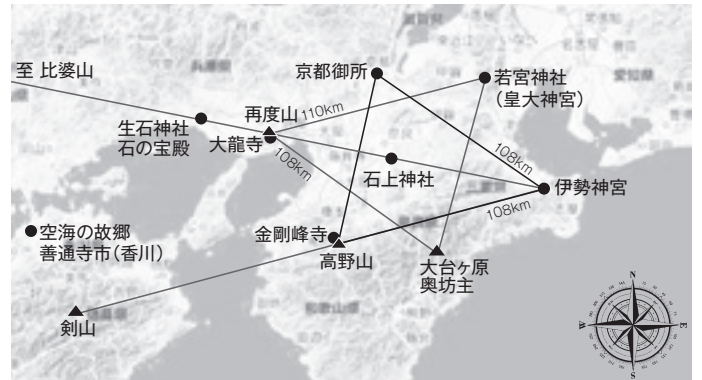
古代から日本では高い山に神が居着くと信じられていたことから、山は神聖な場所と考えられていました。よって山の頂上周辺では神が祀られるようになったと考えられます。また、日本列島内に聖地を見出すためには、山や岬などの自然の地形が目印として用いられることが多く、それらを結び線上に神社が建立されていきました。相互の位置づけを細かく確認するために、必然的に山々には名前が付けられたのではないのでしょうか。また、時には山の頂だけでなく、なんの変哲もない丘陵や平地の一点でさえも、聖地や地表を結ぶ線が交差する地点は重要視され、その場所には名前が付けられることがありました。大台ヶ原の東方、熊野の秘境にある奥坊主という場所も、その事例の一つと考えられます。

大台ヶ原と奥坊主の不思議

大台ヶ原山は三重県と奈良県

の県境にある標高1,695.1mの山です。その最高峰は日出ヶ岳、周囲の山々に囲まれた東西5kmほどのエリア全体は、大台ヶ原と呼ばれています。その東方は熊野の秘境に隣接し、西側には標高差が1,000mにも及ぶ巨大な断崖の谷間が形成され、大蛇ヶ(だいじゃがら)、蒸籠ヶ(せいろぐら)、千石ヶ(せんごくぐら)と呼ばれる断崖があります。大台ヶ原は太平洋側から湿った風が吹き上げることから降水量が大変多く、過去最大の年間降水量となる8,214ミリの雨量も記録しています。吉野熊野国立公園内にある日本百名山のひとつである大台ヶ原は、トウヒ林やブナ林からなる森林を主体とした大自然に恵まれ、その原生林の中には、ニホンジカやニホンカモシカ、ツキノワグマなど多くの動物が生息しています。

大台ヶ原では、その大自然の光景にちなんだ名称が随所にあります。最高峰は日出ヶ岳と呼ばれ、2km南にある堂倉山へと向かう山道の途中には正木峠が



あり、その先には広大な立ち枯れと笹原が目映る正木ヶ原や牛石ヶ原もあります。また、西方の断崖は大蛇ヶと呼ばれています。大台ヶ原は降水量が多いことから、高山でありながらも頂上周辺には小川が多く流れ、その所々には小さな滝が存在し、それらにも東の滝、黒滝などの名前が付けられています。

大台ヶ原を登山する際は、通常、大台ヶ原ビジターセンターに車を止めて、そこを起点として入山し、最高峰日出ヶ岳を登ります。そこから堂倉山へと繋がる山道を南方へ向かうと、その途中には尾鷲辻があり、堂倉山の手前から尾鷲道と呼ばれる山道に合流し、尾鷲まで遠い道のりを歩いていくことができます。また、尾鷲道は堂倉山から東方へ向かうと熊野の原野を経由して伊勢方

面へと繋がり、いったん堂倉山を過ぎると山道と言えるような人が歩いた形跡が残されている小道がほとんど見えなくなります。そして山の尾根は深い谷間と多くの枯れ木に囲まれ、まさに原始林の様相を呈しています。

大台ヶ原ビジターセンターの東方7kmほど離れたところに花抜山があり、その中腹には花抜峠に向かう登山道入り口があります。その登山道からビジターセンターに向かうためには、深い谷を迂回しながら山の尾根に沿って直線距離の倍にあたるおよそ15kmを歩かなければなりません。一見、大した距離には見えませんが、熊野の秘境と言われるだけあり、実は大変な登山ルートです。まず、東西の高低差が1,000m以上あります。そして雨量が大変多いことから尾根づた

極上の天然黒湯
— 野趣溢れる風雅な雰囲気 —

トリップアドバイザー
全国 TOP20 ランクイン
口コミで選ぶ「行ってよかった」日帰り温泉&スパ

展望寿司レストラン
素材を最大限に
引き出す匠の技

日本ワインフェア開催
特別価格 各2,980円 グラス600円
熊本ワイナリー 菊鹿シャルドネ(白)
しっかりと味の辛口ワイン
サントリー ジャパンプレミアム塩尻
マスカット・ベリーA(赤)
果実香にスパイスやハーブの香りが調和
常時50種類以上の国産ワインを在庫しております

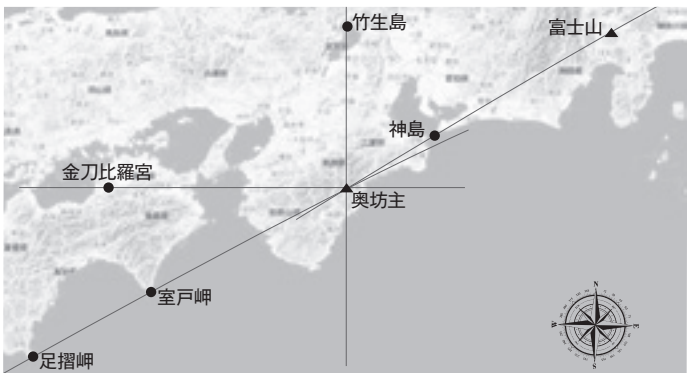
スパ & フィットネス
体のケアと癒しをプライベートな個室で体験できるリゾート風スパ。至高のひとつを約束。

《ご利用料金》
◆リフレクソロジー(15分)1,800円~
◆ボディセラピー(30分)3,200円~
◆フェイシャルセラピー(30分)4,000円~
◆アロマセラピー(30分)4,500円~

フィットネスジム・プール
《ご利用料金》
◆ジム1,000円
◆ジム+屋内プール2,000円
破格で人気のプール付高級ジム
最上級のマシンを完備。

大和の湯 成田の命泉
yamoto-no-yu
www.yamatonoyu.com

入館料 [平日]800円/[土日祝]1000円
※小学生の入館料:300円(大人同伴の入館の場合)
営業時間 10:00-22:00 未就学児の入館はご遠慮ください
※年中無休(全館禁煙)
TEL 0476-28-8111 千葉県成田市大竹1630



いは深い谷がどこまでも続き、しかも枯れ木と倒木が大変多いことから自らの立ち位置を惑わされやすく、自分の居場所がすぐにわからなくなります。一度道を間違えると深い谷間に入ってしまう、Uターンしてまた尾根まで登らなければならない、体力の消耗に繋がります。しかも周辺にはクマが生息していることから、油断すると襲われることになりかねません。さらに危険なことは、天候の急変です。標高 2,000m に近い高山だけに、思いもよらず天候が急変し、すぐに深い霧がかかり、強風にさらされてしまう危険をはらんでいます。よほどの健脚と登山経験を持ち、なおかつ準備を周到にしない限り、日帰りの登山でも遭難する危険性が常に伴う秘境の地なのです。

幸い、今日では携帯電話を使って GPS を用い、衛星からのデータにより自分の居場所を地図上で確認することができます。しかしこれも携帯のバッテリーが続くまでです。7～8 時間を超える登山では予備のバッテリーがないと GPS も切れることになり、危険はつきません。大台ヶ原の東方に広がる熊野の秘境は、そう簡単には入山できない場所と言えます。

その大台ヶ原の最高峰、日出ヶ岳から東方に向かって直線距離で約 5km、山道を経由して 10 km ほど歩き、尾根から谷を下り、熊野の奥地にある崖つぎの終点にまで足を運ぶと、そこに「奥坊主」と名付けられた行き止まりのように見える小さな場所があります。地図上にてその地勢を確認しても何ら特筆に値することはなく、しかも人がなかなか足を踏み入れることができないような熊野の奥地にて名前が付けられていることからして、何故かしらその場所には大切な意味が秘められているに違いありません。

レイラインによる奥坊主との出会い

熊野から大台ヶ原に至る広大なエリアには多くの地名が存在します。しかしながら何ら特徴もなく、ごく限られた人しか足を運ぶことができないような熊野の奥地が、なぜ、奥坊主と命名されたのでしょうか。奥坊主と言えば、江戸時代では江戸城の茶室を管理し、将軍家を接待し

た坊主のことを指します。坊主という言葉自体、本来は房主と書き、その房を管理する主のことを言います。よって奥坊主とはいつしか、お殿様に仕えるという重職を担う専門の給仕人であり、奥房の主としての責任者だったのです。その語源が江戸時代より昔、どこまで遡るかわかりませんが、いつしか熊野の原生林の一角も、奥坊主として知られるようになったのです。奥坊主はお殿様に茶をもって仕える意味であったことからして、大自然の中の奥坊主とは、そこで神様に茶をたてる、すなわち祈りを捧げて仕える場所であった可能性があります。そんな熊野の秘境にある小さな聖地の存在に、ある日ふと気が付くことになりました。

日本に存在する古代神社の建立地は、著名な霊峰や岬を結ぶ架空の直線にて繋がっているものが少なくありません。この聖地が一直線上に並ぶ状態をレイラインと呼びます。レイラインの存在を知るきっかけとなったのが、四国剣山との出会いです。GOOGLE マップを用いて四国の剣山や伊勢神宮の位置付けを検証していた時、ふとその 2 点を結ぶ線が高野山の地点をピンポイントで通り抜けることに気が付いたのです。高野山という山は存在せず、その中心地と思われる場所を GOOGLE マップは特定していただけなのですが、偶然とは思えませんでした。それゆえ、聖地の数々を結び付けて線引きをしながら、果たして他の聖地も一直線上に並んでいるか確認するという、レイライン考察の旅が始まったのです。その結果、例えば伊勢神宮から京都御所と高野山までの距離はそれぞれ 108km と等しく、御所と高野山の中間にある石上神宮と伊勢神宮を結ぶ線を更に西北西に延長すると、神戸の再度山、生石神社の石の宝殿、そして記紀に登場する比婆山にまで一直線が繋がっていることがわかりました。

どうしても偶然の一致とは思えないレイラインの存在に思いを馳せ、さらに一步踏み込んで考察を続けた結果、思いついたことは、伊勢神宮と高野山、京都御所の 3 点からなる二等辺三角形と全く同じ大きさの三角形を、今度は再度山を頂点に描くということでした。するとおよそ

六芒星のような形が生まれるだけでなく、底辺 2 点の場所に位置する聖地を特定することができたのです。まず北側の角には皇大神宮とも呼ばれる若宮神社がありました。そして南側の角にあたる地点は大台ヶ原に近い熊野の奥地を示していたのです。ところが地図を見ても地勢上、特筆すべき場所はなく、無論、神社もありません。そこで地図を拡大しながら検証しているうちに、何の特徴も見出せない熊野の山奥に「奥坊主」と呼ばれる場所があることを発見したのです。それをもって、伊勢神宮と再度山を頂点に持つ架空の六芒星が完結したのです。

熊野の山奥にある原生林の一角が奥坊主と命名され、古代よりそこに人が到来し、その場所を大切にしたのは、それなりの根拠と理由があったことでしょう。その謎は、レイラインの検証により解明できるかもしれませんが。最初に注目したのは、同じ経度にある聖地です。古代、琵琶湖では竹生島が聖地化されていたと考えられ、今日でも竹生島周辺の琵琶湖の底には多くの遺物が見つかっています。その竹生島の真南に奥坊主があるのです。次に同じ緯度線を引いてみると、奥坊主の西側、同緯度上に古代、海洋豪族が神を祀っていたことで知られる金刀比羅神社が存在します。日本の海原を行き来していた海洋豪族は、瀬戸内から内地の琵琶湖にいたるまで、古代は船で行き来していたことが知られています。よって、竹生島と金刀比羅神社が、奥坊主を通じて紐づけられていたことに何ら不思議はありません。次に奥坊主と富士山の山頂を結んでみました。するとその途中には古くから多くの神宝が秘蔵されていたと言われる神島が、伊勢湾の入り口となる伊良湖岬の沖に浮かんでいます。さらに四国の足摺岬と室戸岬を結ぶと、その先に奥坊主の場所を見つけることができます。

奥坊主と呼ばれる熊野の奥地は、単に偶然にその場所が奥坊主と命名されたのではなく、どうやら周到な計画をもって、綿密にその場所が特定された可能性があります。しかしながら熊野の秘境となる山々は険しく、谷も深く、そこまでの道のりはあまりに遠いことから、いったん道に迷えば帰ってくるができなくなり、遭難死してしまうような場所なのです。それでも、奥坊主の場所が重要視されたからには、何かしら理由があるはずです。いつしかその謎に迫るため、実際に奥坊主を自分の足で訪ね、この目で確かめてみたいと思うようになりました。そして 2018 年の 5 月、遂に奥坊主へ登山するチャンスが到来したのです。

大失敗に終わった初挑戦の奥坊主！

2018 年 5 月 5 日の「子供の日」、待ちに待った奥坊主へ登山するチャンスが到来しました。奥坊主に関する情報はほとんどないことから、地図と睨めっこを繰り返しつつ、運を天に任せてベストの登山ルートを探りあてます。最終的に決まったルートは、まず車で花拔峠登山道入り口まで行き、そこから花拔峠を経由して奥坊主に向かい、その後、更に西に進んで終点を大台ヶ原ビジターセンターとすることでした。そのため、知人にお願ひし、花拔峠で下車した後、ビジターセンターに迎えに来てもらうという段取りでプランを進めました。花拔峠からビジターセンターまでは車で大台ヶ原の南方を迂回して走らなければならない、その距離は 100 km を超え、3 時間近くかかります。そのような険しい山並みを登山する訳ですが、健脚に自信を持っていたからこそ、勇気をもって踏み出すことにしました。

幸いにも YAMAP という登山者向けアプリには最新鋭 GPS のマップが搭載されたことから、スマホを携帯するだけで、電波の届かない山奥でも道に迷うことがなくなりました。それ故、安心して熊野の奥地へと入っていくことができるように思えたのです。しかしながら十分な下調べをしなかったこと、そして熊野の原生林を甘く見ていたことから、大きな挫折を味わうことになるのは、夢にも思いませんでした。



どこもかしこも倒木の嵐だ。。

当初から誤算づくめでした。まず、スタート時間を 11 時と遅めに設定し、途中トレッキングの訓練も含めて走ることから、夕方 5 時までは終点の大台ヶ原ビジターセンターに到達すると見込んだのですが、あまりに無謀な計画でした。また、スタートから終点まで 1,000m 以上もある高低差も把握しきれていませんでした。急斜面の所々に散在する枯れ木と倒木に囲まれ、極めて足場の悪い山々を 15km もの長距離にわたり登山しなければならず、その距離感覚も読み誤ってしまったのです。しかも、ほとんどの場所に山道がなく、尾根沿いから奥坊主へと抜けるためには急斜面を 1km 以上も下らなければならないことが、現地をみて初めてわかりました。その通り道は、奥坊主へ到達後、帰りには再び登らなければならない急斜面にもなることから大変な負担です。ましてや道なき道を探しながら足元に注意し、時間を気にしながら



花拔峠近くから尾鷲湾を一望する

熊野の秘境の地を小走りで進む訳ですから、極度の神経戦を強いられるようなものだったのです。そのような環境下で、15km もの原生林の中を 5 時間で走りきることを目論んだ自分が愚かでした。

これまで白山、立山、月山、旭岳、石鎚山など多くの山々を走り抜けてきたことから、まさか奥坊主でトラブルが待ち受けているとは思ってもよらず、花拔峠登山道入り口から勇ましくスタートしたのです。すると、しょっぱなから雲行きが怪しくなりました。スタート直後から道に迷ってしまったのです。登山道入り口というのに小川が流れていて、その先、どこにも道らしき道が見えないのです。そして小川を行き来した際、うっかり川石の上で足を滑らせて転び、すぐさま靴がびしょ濡れです。その後も結局登山道が探せず、GPS を頼りに急斜面を花拔峠に向けて一直線に登ることにしました。しかしながら斜面は予想以上に険しく、また、原生林に囲まれてしまったことから方向性を間違いやすく、迷いながら急斜面を登ることで体力をひどく消耗し、峠の近くに来た時には既に午後 1 時 20 分を回っていました。まだ全体の 6 分の 1 に満たない 2km 少々しか進んでないことに、一気に焦りを感じ始めました。

このままのペースで進むと、終点の大台ヶ原ビジターセンターに着くのは夜の 10 時を過ぎてしまい、遭難する危険性が一気に高まります。しかも手持ちの食糧はなく、水を少々持ってきただけでした。そこで花拔峠を経た後は、傾斜もゆるくなったこともあり、一気に足を速めたのです。そして遂に奥坊主へ繋がる尾根沿いに辿り着き、そこから急斜面を下っていきました。ところが時計を見ると、すでに時刻は 3 時を回り、しかも尾根からの坂道は下り坂が半端ではなく、200m ほど谷間を進んでも行先がわかりづらく、GPS 上でも奥坊主はかなり先に見えました。と、その時 2 つの不安がよぎりました。まず携帯のバッテリーを見ると、もう残りが 30% を切っているのです。すでに何度も道に迷い、行ったり来たりを繰り返していることから、熊野の奥地で GPS が止まれば遭難は免れません。そしてこの急斜面をどんどんと下りながら奥坊主に向かうということは、その後、その斜面を逆に登らなければならないということでもあり、このまあいくと、既に消耗し始めた体力が限界に達し、夜になって遭難する可能

性が高くなると思いました。しかも出発時は20度以上あった気温が3時になったとたん急激に下がってきたのです。体感温度はすでに12～13度を切ってきたように思いました。

奥坊主まであと、1kmもない地点まで汗水流して苦しい思いを我慢してきましたが、軽装しか準備してないこともあり、遭難を回避するため、人生で初めて目的地到達を断念。急いで急斜面をUターンして登り、そこからGPSを頼りに大台ヶ原ビジターセンターへと向かいました。すでに4時間少々、時間を費やして6kmほど斜面を歩き通し、時刻は3時20分を回っていました。そこからまだ9kmの距離を残しており、何とか夕暮れまでに終点の大台ヶ原ビジターセンターまで到達することを願って早足で進み続けました。

登山とトレッキングは我慢の連続です。すべてを耐え忍び、我慢して進み続けられ、いつしか最終地点に到達できます。しかしながら、携帯電話のバッテリーも切れかけており、残りが10%台になっていました。そして迷った時にマップの詳細を見ると一気にバッテリーが消耗することから、マップを参照することもままならず、精神的ストレスは極限にまで達していたのです。そして疲労困憊の中、夕暮れとなった午後6時半、やっとの思いでビジターセンターまであと2kmという場所にある尾鷲辻の休憩所に辿り着きました。ここまでくれば遭難の危険はもうありません。そこから急いでビジターセンターに向けて足を運び、終点に到着した時、既に夜の7時を

過ぎており、辺りは真っ暗でした。初めての敗北経験となる登山であり、熊野の奥深さと難しさを思い知らされることとなりました。ビジターセンターで長時間待っていてくださった友人に感謝します。

<https://yamap.co.jp/activity/1849626>
 (「奥坊主に到達できず!」Yamap掲載)

2回目の奥坊主チャレンジも連敗!

奥坊主がいかに遠い熊野の奥地にあるかということを知らされた初チャレンジの大失敗から2週間後の5月20日、2度と失敗は許されない覚悟で改めてプランを立て直し、再度、奥坊主に登山することになりました。今回は自分で運転して同じ場所に帰還しなければなりません。花拔峠登山口は、周辺に何もなし砂利道の先にあり、ひとりで行くにはあまりに無謀であることから、大台ヶ原ビジターセンターを出発点とし、そこにまた戻ってくることにしました。そうすると、奥坊主までの歩行距離は往復で20kmを優に超えてしまい、道に迷いやすく足元も悪いことから、十分な時間を確保する必要がありました。といっても前日の夜は京都で仕事があり、日曜の早朝5時に出発して何とか9時までには大台ヶ原ビジターセンターに到着できるようにと計画しました。2回目ということもあり、今回は携帯電話を2台持参し、食料も少量抱え、前回通った道を再び歩むことから不安はありませんでした。

人生にはアクシデントがつきものです。準備周到と思いきや、京都で仕事をしている時に何と、予備の携帯を新幹線に置き忘れてい

ることに気が付いたのです。何と愚かな!そんな自分に嫌気がさすものの、仕方がないので1台の携帯で奥坊主の再チャレンジを決行することにしました。翌朝、京都から大台ヶ原ビジターセンターまでの道のりは意外に遠く、センターに到着して登山を開始した時刻はちょうど10時になっていました。しかしながら夕暮れまで8時間あり、行く道と帰り道が同じということもあり、奥坊主まで十分に到達できるはずでした。

スタート直後から元気に駆け足で、尾鷲道に向かって歩いていきました。2週間前に一度通った道でもあることから、最初は楽しく、歌をうたいながら進んでいくことができました。その途中は倒木の嵐であり、まさに恐竜がなぎ倒したような様相の風景が続きます。無数の枯れ木が立っている姿は、普通では考えられない光景です。しばらく行くと、遠く東南方向に尾鷲の海が目に入り、心が弾みます。ところが昼過ぎくらいから周囲に雲がかかり始め、ガス(霧)が押し寄せてくるように見えたのです。天気図と予報を確認し、その日は快晴であることを確認して登山日としました。いやな予感がします。そして尾根から奥坊主へと向かうため、急斜面を下がり続けると、その奥地には何と小川が流れており、そこには小さな滝があったのです。これはすごいな、と思うも、携帯のマップを見ても、どの方向に進めば奥坊主があるのかさっぱりわからないほどの急斜面に囲まれてしまったのです。周囲は一面、深い谷と斜面続きであり、どこも同じような様相に見

えてしまい、初回の登山と同じ状況に陥ってしまいました。

奥坊主まであと500～600mほどしかないはずですが、携帯電話を見ると残りのバッテリーが42%になっていました。そして周辺一帯はガスが覆いかかるように広がっていたのです。このまま行き先がわかりづらい奥坊主に迷いながら向かって、1台しかない携帯のバッテリーが帰路の途中で確実に切れることになり、しかも霧にまかれて遭難する危険性が極めて高く感じられたことから、奥坊主の直前でまたしても断念することになりました。悔しさよりも、身の安全を優先したい一心での勇断です。



突如として押し寄せてくる濃霧

それから急いで霧にまかれながら、GPSだけを頼りに大台ヶ原ビジターセンターを目指しました。そして予感的中しました。3時51分、ビジターセンターまで後2kmの尾鷲辻休憩所にやっとの思いで戻ってきた瞬間、携帯のバッテリーは切れました。帰りがあと1時間遅くなっていたら、どうなっていたらと思うと怖くなります。そして午後4時半、終点の大台ヶ原ビジターセンターに到着しました。駐車場は霧につつまれ、あたりは視界がほとんどない状態でした。もしあの時、奥坊主への道を断念していなければ、危うく遭難するところでした。登山には

あきらめも肝心です。

<https://yamap.co.jp/activity/1907317>
 (大台ヶ原奥坊主への道は遠かった...YAMAP掲載)

念願の奥坊主に3度目の正直で到達!

2度の登山失敗を繰り返した後の7月15日、3度目の正直ということで、再び奥坊主の日帰りトレッキングにチャレンジすることにしました。辛い体験を2度繰り返していることから、これが最後のトライになることは最初からわかっていました。よって、最善の準備を周到に行い、自信をもってチャレンジできる体制を整えました。最も気をつかったのは、GPSを終始維持するためのバッテリーを保持することです。そこで、携帯用の予備バッテリーを2個用意し、さらに携帯はSoftbank, Docomo, AUの3台を準備しました。そして今度はスタート時間を更に前倒して、朝8時から大台ヶ原ビジターセンターを出発することにしました。つまり最悪でも10時間、片道5時間かけて奥坊主に到達すれば、十分に帰ってこれると目論んだのです。

3度目のチャレンジですから、原生林と深い谷、そして倒木、枯れ木が散在する山々でも、何となく見慣れてきており、およそ行く方向がわかってきました。それでもGPSがないと所々で曲がる場所を間違えるほど周辺の景色はど



奥坊主へとつながる山道が遂に現れる!

編集後記

昨今話題の全米オープンテニス優勝者、大坂なおみのプレーがどうしても見たくなり、東レパンパシフィック・テニストーナメントの決勝戦を観戦してきました。残念ながら大坂選手は優勝を逃しましたが、そのパワー感みなぎる強打の連続は特筆するべきものがあります。両プレーヤーともに時速190km台の強烈なサーブが炸裂。グラウンド・ストロークも男性顔負けのパワースイング! 錦織のサーブが遅すぎると揶揄する彼女の気持ちや、やっとうわかりました! 観戦の合間に原稿の執筆をまとめることができ、感謝!

NCJ編集長 中島 尚彦

WEBサイト案内

本誌のバックナンバーはWEBサイトに全てご覧いただけます。連載中の歴史に関するコラムは、最新情報に随時更新して「日本とユダヤのハーモニー」にまとめてあります。ぜひご覧ください。

日本シティジャーナル: <http://www.nihoncity.com/>
 日本とユダヤのハーモニー: <http://www.history.jp.com/>

求人情報 個室露天、食事処やスパも備える 人気の天然温泉

調理アシスタント 調理補助、キッチン業務全般	四時給1,100円～ ※シフト制・時間応談、経験者歓迎
レストランホールスタッフ 料理の配膳、ホール業務全般	四時給1,000円～ ※シフト制・時間応談
フロント受付スタッフ 電話対応、受付業務全般	四時給1,000円～ ※シフト制・時間応談

給 与▶上記参照 ※経験・スキルを考慮 休 日▶シフト制
 待 遇▶社保完備、大駐車場あり、制服貸与、当館無料優待(家族含む)など
 応 募▶下記番号まで電話連絡の上、履歴書持参ください

大和の湯 成田の命湯 〒286-0841 千葉県成田市大竹1630
 ☎0476-28-8111
 e-mail: info@yamatonoyu.com (担当:採用係)

国内最大級の楽器・音響・照明機器ネット通販

正社員・パート募集

顧客サポートスタッフ ●業務内容:販売計画の立案・実行、顧客からの注文、問い合わせ対応等 ●必要スキル:PC操作(タイピング)	正社員 月給 24万円～ (27時間分の固定みなし残業代含む) パート 時給 1,200円～ (週4日以上シフト勤務)
インフラエンジニア ●業務内容:社内インフラの設計、運用・維持・管理 ●必要資格:サーバの構築・運用、またはLANの構築・運用の経験(3年以上)	正社員 月給 38万円～ (45時間分の固定みなし残業代含む)
電気主任技術者 ●業務内容:本社・関連施設における電気設備の保守点検・緊急対応など ●必要資格:第3種電気主任技術者以上	正社員 月給 35万円～ (45時間分の固定みなし残業代含む)
音響機器修理スタッフ ●業務内容:音響機器、楽器、照明機器などの検証、修理、メンテナンス ※家電製品、弱電機器関連の修理実務経験者優遇	正社員 月給 24万円～ (27時間分の固定みなし残業代含む)
物流倉庫管理アシスタント ●業務内容:本社物流倉庫にて取扱商品の梱包・ピッキング業務、倉庫整理など。 ※未経験者歓迎	正社員 月給 25万円～ (27時間分の固定みなし残業代含む)
梱包・軽作業スタッフ ●業務内容:本社物流倉庫にて取扱商品の梱包・ピッキング業務、倉庫整理など。 ※未経験者歓迎	パート 時給 1,200円 1日4～8時間、週3日以上シフト勤務、応相談

- ▶資 格: 学歴不問 各職種の実務経験者優遇します
 ▶給 与: 各職種欄参照 ※経験・スキルを考慮して決定
 ▶休 日: 週休二日 シフト制(正社員)、年末年始休暇、有給休暇
 ▶時 間: 平日9:00～18:00 / 土曜11:00～17:00
 (時間は部署によって異なります)
 ▶待 遇: 社保完備、社宅あり、交通費支給、社内フィットネスジム
 海外研修、温泉無料優待(家族含む)英語学習サポートなど

応募方法 ※Eメールで送る場合はPDF・Excel・Wordにてお願いします
 下記まで履歴書(写真貼付・メールアドレス記載)、を郵送またはEメールにてお送りください。書類選考の上、面接日を連絡します。
 郵 送 〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3 株式会社サウンドハウス 採用係
 E-mail job@soundhouse.co.jp

募集内容は弊社WEBサイトに詳しく掲載しています
 こちらのQRコードよりご覧になれます
 応募フォームもあります
<https://recruit.soundhouse.co.jp>



新しい奥坊主の標識を打ち立てる！

こもかしこも似たようなものばかりで、行ったり来たり繰り返しがありません。そして11時45分、ついに尾根づたいから奥坊主へと向かって谷を下りる地点にまでやってきました。2回目のチャレンジでは小川や小さな滝を見つけたが、その周辺は行き先がわかりづらかったことから、今度はアプローチの角度を変えて、GPSを見ながらもう少し直線コースで進むことにしました。

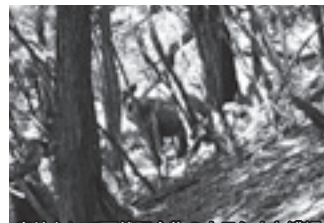
それにしても本当にわかりづらく、自分がどこにいるのかさっぱりわからなくなるばかりで不安がつのる最中、崖や岩場を避けながら足場の悪い急斜面を神経を尖らせながら斜めに進んでいくと、突然、枯れ木の広場が見えてきました。そして12時50分、ついに光明が見えてきたのです。それまで原生林を歩んできたのにも関わらず、奥坊主にかなり近づいてきたと思われるその小さな広場の先には、突如として人が歩き続けてきたと思われる

山道が現れたのです。明らかに長年、多くの人があつてきた形跡のある山道が、奥坊主へ続く最後のアプローチにのみ存在していたのです。これは正に、古くから奥坊主には多くの行者が集っていたことの証ではないでしょうか。

山道の確認と共にその狭い道を早足で進んでいくと、徐々に両側の崖の幅が狭くなってきたことから、奥坊主が目前に迫ってきたことがわかります。もう迷うことはありません。あとはひたすら前に進むだけです。最後の上り坂を一気に進むと、ついに奥坊主と呼ばれる最終地点に到達しました！単に樹木に囲まれた10数坪にしか見えない小さなエリアですが、そこが古代の聖地かと思うと、何かしら熱い思いが込み上げてきます。そして持参した奥坊主の標識をリュックから取り出し、杭にねじ止めしてハンマーで地表に打ち付けました。新しい標識の打ち立てに成功！我、奥坊主にあり！

その後、すぐにUターンして戻ることとし、奥坊主から出発しようと立ち上がった瞬間、大きな黒い影がガサガサ、と目の前で動いたのです。まずい、熊か？と一瞬不安がよぎります。そしてそっと数歩、傾斜地を進むと、何と、自分をじーっと見ている大きな動

物が、すぐそばにいてはいないですか。初めてみる巨大な黒い動物。ところがどう見ても熊ではないのです。しかも馬のように大きく、牛のように体が太く、角はないが落ち着いた様相で立っているのです。自分からの距離は15mほどだったでしょうか。その正体は、天然記念物となっているカモシカでした。驚いたことに、奥坊主の頂上までカモシカが追いかけてきてくれたのです。というのも、その周辺には崖がなく、いくら急斜面に慣れているカモシカとて、その頂上まで上ってくる必要はないはずですが、一生に一度の体験ですが、カモシカと挨拶を交わすことができ、ありがたき幸せと思いました。



奥坊主にて天然記念物のカモシカと遭遇

3度目の登頂チャレンジが成功し、それから必死の思いで、ビジターセンターまで足を運びました。その途中、倒木の枝に足をひっかけ、すねの部分を10cmほど深く切っしまい、痛い思いをしました。しかしそれよりもとに

かく、奥坊主へ到達できた喜びの方が大きかったです。ただ悔いが残ることは、3度目も携帯電話で失敗をしてしまったことです。まず、予備のバッテリーの使い勝手が悪く、結局は使えなかったこと。そして3台持ち込んでしまったため、GPSの機能がうまく連携できず、せっかく撮影した画像と地図がリンクせず、YAMAPというサイトにこれら感動のコメントを画像と共に掲載することができなかつたのです。が、奥坊主の日帰り登頂に成功した感激の1日であることに変わりありません。



倒木をまたぐ際に足を引っ掛けて大怪我！

奥坊主の意味を考える

レイラインの考察から見出した奥坊主ではありますが、その場所の意義は、実際にそこに行ってみて、初めて理解することができました。奥坊主はどう考えても単なる修行の場所ではないようです。その場所は、一度行けば帰ってくることでできない、一方通行の場所

はなかったかと考えます。現代のGPSを用いても健脚の人が、かろうじて日帰りで行き来できるような奥地にあり、一般庶民が行けるような場所ではないのです。しかも奥坊主がある熊野の奥地は日中と夜の温度差が激しいだけでなく、雨量も多く、高山であるだけにすぐに霧に包まれ、周囲が見えなくなってしまう。つまり、奥坊主へ行くということは、熊野から抜け出すことができなくなる危険を常に孕んでおり、そこで死ぬ覚悟がなければ到底行けない場所のように思えてきたのです。

奥坊主とは、神様に祈りを捧げ、そこで人生の最後を遂げる覚悟をもった人のみ到達できる、行者の最終修行地であったと考えられます。古代の民は、その場所が富士山と神島、琵琶湖の竹生島、そして金刀比羅神社に結びついていることに安堵し、そこで生涯を全うするという思いを馳せて、熊野の秘境を訪れたのではないかと推測します。つまり、奥坊主は聖者の墓場でもあったのです。大勢の聖者の遺骨が、奥坊主の崖の先に埋められているのではと思うと、熊野の長い歴史の重みを感じないではいられません。(文・中島尚彦)

全国各地の音楽シーンを応援

楽器・音響・照明機器ならサウンドハウス
国内最大規模のECサイトを運営。
海外著名ブランドの正規代理店として、
ユーザーを熱烈にサポート。
LINEやInstagramなどのSNS媒体を通じ、
最新の音楽情報を全国に発信中！



We love Sound House

「魂」で音楽を創るアーティストを発掘・応援
TuneCore Japanとタッグを組んで
オーディションを開催



2018年、サウンドハウスは、「YOITOKOプロジェクト」を始動。人々の心をつないでいく音楽の力、全国各地の「YOITOKO」(良い所)そして人や街の魅力を伝えていきます。

西日本豪雨復興支援



被災した楽器・音響・照明機材の無償修理を行っています。お知り合いの方で困りの方がいれば、ぜひご連絡ください

 SOUND HOUSE